

伝統と祭りでの結束力を生かした自主防災部

先進的な防災活動の内容

鞍馬学区自主防災会は、左京区の東北部に位置し、貴船、二ノ瀬、本町の3町内約250世帯で構成されており、本町ブロック自主防災部は156世帯で山と山に挟まれた谷筋に開けた地域です。

皆さんよくご存知の「鞍馬の火祭」は、本町ブロック自主防災部の地域内で行われていて、町内の成人男衆は、ほとんどが消防分団員の経験者です。

自主防災部と消防団は、「阿吽(あうん)」の呼吸で防火防災に取り組んでいます。

学区の色々な行事にもお互いの立場を踏まえつつ連絡を密にして、一枚岩のごとく固いぎずなで結ばれています。祭りを盛り上げる力、また、何世代にも渡り、脈々と引き継がれてきた『伝統を受け継ぐ力』が大きく地域の防災力向上の原動力となっています。昨今、ちまたで言われている地域コミュニティの希薄化というもの是一切存在せず、この祭りが後世へと永遠に続く限り『地域防災の輪』が途絶することはありません。



特記事項

- 社会問題である高齢化は、鞍馬学区でも他人事ではなく、高齢者世帯が年々増え続けています。まず高齢者を火災からも守ることを中心に「隣組での声の掛け合い」や「誰もが使用できる防火防災器材の取扱訓練」などの取組を行っています。

非常ベルの点検を「防災の日」に行います！

先進的な防災活動の内容

聖護院学区自主防災会の中町と西町の両自主防災部では、火災等を知らせる非常ベル(押しボタンと連動ベルで1セット)を地域内に合計17箇所設置しています。

毎年9月1日の「防災の日」に正午から実施している非常ベルの点検は、今年で12年目になりました。

非常ベルの点検を「防災の日」と決めて行っている地域は、他にもあるのでしょうか？

非常ベルは、地域の住民が助け合うための大切なものです。必ず9月1日の「防災の日」に点検することによって、地域の安心安全のきずなづくりの根幹を成すもので、これを継続させていることを町の誇りとしています。

点検を実施することで、自主防災部役員をはじめとした住民と、地域の防災リーダーである聖護院消防分団員との円滑な連携にも効果を上げており、点検は、災害に備える安心安全のまちづくりの宝物と位置付けています。



特 記 事 項

- 非常ベルの点検は、本当に地道な取組ではありますが、聖護院学区では丸4年間無火災を継続中です。「防災の日」(非常ベルの点検日)を迎えるたびに、新たな気持ちになって、災害に対する万全の備えと地域のきずなをより強固にすることを誓い合っています。
- 中町・西町自主防災部は、地域のシンボルである聖護院門跡に隣接するところにあり、聖護院学区内では常に防火防災のお手本となっています。地域の街角には粉末消火器が配置され、すべての家庭の玄関先には防火バケツが置かれています。
- この地域内に足を一步踏み入れたとき、目に入ってくる消火器や防火バケツ、非常ベル等の「赤い色」から、自主防災力の高いことが一目瞭然となります。この環境から、きっと放火魔も退散しているのでしょう。

災害時における地域と事業所との協力体制

先進的な防災活動の内容

清水地域は、日本全国のみならず海外からもたくさんの観光客が訪れます。そこでその観光客の足として人気なのが、鍛えられ、洗練されたマナーを身に着けた若者が引く人力車です。清水学区自主防災会清水四丁目西自主防災部では、この地域の特色といえる人力車が防災面でも活躍します。避難所への避難の際には、自力避難が困難な方を搬送する強力な機動力として運用し、速やかに避難をしてもらうことができます。

このような協力体制が出来上がったのは、人力車を運用する事業所と地域の方々との良好なお付き合いがあればこそであ

り、災害時における地域と事業所の身近な協力体制の良い事例であると思います。

また、清水学区自主防災会清水四丁目西自主防災部では、自主防災部のメンバーが初期消火訓練を主体とした防火防災行事で、訓練の一切を取り仕切っています。京都市内に、活発な活動を展開する自主防災部は数多く存在しますが、自主防災部内で十分にこなしていけるマンパワーを有しているところは、そう多くはないのではないでしょうか。

この豊富な人材と、近隣地域との良好な協力体制を生かし、清水学区を災害から守っています。



実際に人力車を活用

特記事項

- 本年度の清水学区総合防災訓練では、実際に避難が困難な方に人力車を活用して訓練に参加してもらい大変好評でした。
- 災害発生時にも、観光客が多数いると考えられるので、被災者の正確な数を把握するのが課題です。

歴史と伝統のある町にAEDを設置

先進的な防災活動の内容

燈籠(とうろう)町は、京都市の中心的繁華街の一つである四条烏丸の南東角付近に位置し、祇園祭の山である保昌山(ほうしょうやま)を保存伝承しており、毎年祇園祭のときには、多くの観光客や市民がお守りなどを買い求め、この町内を訪れます。

燈籠町自主防災部では、地域の安心安全ネットワーク事業の一環として、平成19年にAEDを購入しました。誰でもすぐに使えるように燈籠町会所の屋外に設置し、夜間でも、手間取ることなくAEDを持ち出せるように手元を照らす専用の照明も設置し

ています。

このAEDの設置を機会に、町内の方を対象とした普通救命講習を複数回実施し、AEDの効果と使用方法について理解していただくことができました。

自主防災部が単独でAEDを設置するケースは珍しいらしいと署員の方から聞いていますが、身近にAEDが設置されたことで、地域住民が救命について興味を持ち、救命講習を実施した際には、全員が自ら進んで訓練に参加するようになりました。



特記事項

- 一度救命講習を受講した人でも、機会がある度に何度も講習を受講し、積極的にAEDの使用方法を会得しようとするようになりました。
- 燈籠町には、祇園祭の山の一つである保昌山があり、地域住民が保存会を作り伝統を守っています。
- 保昌山が地域住民のよりどころとなり、コミュニティの活性化に一役かっています。

自主防災部で防災訓練の実施

先進的な防災活動の内容

檜原五条自主防災部では、阪神・淡路大震災で受けた被害を教訓に、平成11年度から大規模な地域発災型の防災訓練を行っており、毎年60名から100名ほどの住民が訓練に参加します。

毎年、様々な訓練を行っていますが、その一例を紹介します。

午前10時、消防車のサイレンと同時に開始します。そのサイレンは地震の発生を意味し、各家庭において自己の安全を図る

など、地震発生時における家庭内で初動訓練を実施します。その後、街区内の4箇所疑似火災を発生させ、町内設置の消火器を持ち寄って初期消火訓練を行います。そして、一時避難場所である町内の公園へ避難した後、煙中ハウスを活用した煙中避難訓練などを実施します。

最後に給食訓練を実施し、訓練を締めくくります。



特記事項

- 上記の内容は、ほんの一例で、AEDの取扱いなどの救急訓練、防災に関するビデオの上映会、起震車を活用した地震体験訓練など、様々な訓練を実施しています。
- 毎年、形を変え行われる訓練は、自主防災部が行うものとしては大規模なものです。住民一人一人の防災に対する意識が高いので実施できるものです。